

第五回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成27年11月6日（金） 午前9時～

2. 場 所 南区役所3階会議室

3. 出席委員

佐藤委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、吉村委員、井村委員、
平川委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、田中委員（会長）、金井委員、
島田委員

4. 配布資料

- (1)－「会議次第」
- (2)－「委員名簿」
- (3)－「【資料1】『南区のまちづくりを子どもと一緒に考えるワークショップ』の分析結果について」
- (4)－「【資料2】『南区のまちづくりを振り返るワークショップ』の分析結果についてについて」
- (5)－「【資料3】平成28年度南区まちづくり推進事業について」

5. 次第

- (1) 開 会
- (2) 議事 ①『南区のまちづくりを子どもと一緒に考えるワークショップ』及び『南区のまちづくりを振り返るワークショップ』の分析結果について
②平成28年度南区まちづくり推進事業について
- (3) 意見交換
- (4) その他
- (5) 閉 会

6. 議事録

会 長 まず、「議題1 『南区のまちづくりを子どもと一緒に考えるワークショップ』及び『南区のまちづくりを振り返るワークショップ』の分析結果について」は、私からご説明する。

(分析結果に関する説明)

A 委員 分析結果の中で、子ども会の話が出たが、各地区に子ども会はある。あるけど、行政と関係するとか、子ども会という組織として届出ているのはわずか。でも、子ども会として活動している団体はたくさんある。どうして、届出をしないかというのと、届出してしまうと、全体の子どもの会のお世話が必要になるから。見えている部分だけで、子ども会の加入率が低いというのは、ちょっと違うと思う。

B 委員 私は、子ども会は形骸化して、崩壊寸前だと思う。子ども会に入れば、まちの自治会の行事に参加しないといけないから。動員に利用されてしまうので、子ども会には入りたくないという意識が強い。自治会からの補助金は少ししかもらえず、廃品回収をしなくてはならないなど、過去の子どもの会をそのまま引きずっている感じがする。PTAに一本化するなど、そろそろ見直す時期ではないか。

先日、「クローズアップ現代」で「町内会が曲がり角にきている」という特集があった。町内会は戦時中の隣組からスタートしていて、日本独特の制度。東京などの都会では加入率半分という状況。脱退すれば、ごみ収集所を使えないとか街灯を消されるという内容だった。子ども会も町内会と同じ。今、存続の岐路に立たされている。

会 長 今回、ワークショップを子どもと一緒にやることによって、子どもからも色んな意見が出た。今の子どもたちは部活・塾などで忙しい中で、子ども会のイベントにも参加しているため、イベントを楽しめない状況もあって、子どものための子ども会になっていないのではないかという議論もあった。でも、子どもたちはそれを不満に思っているわけではなくて、自分達はやることはやれているという感じだった。子どもを入れたワークショップでは、大人にも気づきがあって、よかった。

子ども会は地域によって、実情が違う。天明では「天明っ子と胸をはって言うてほしい。」という大人の意見があった。

C 委員 「公園でボール遊びができない」という意見があるが、せっかく作った公園なので、ボールを使える曜日を作ったらどうだろうか。それがダメなら、どこか一つの公園をボール遊び専用にするとか考えてみたらどうか。

会 長 とてもおもしろいアイデアだと思う。誰も使っていない公園をボール遊び専用にするのはとてもいい。法律や制度の問題で、難しい面もあるかもしれないが、言わないと変わらないので、いろんなアイデアを出すのが大事だと思う。

D 委員 公園については、各町内に最低 1 ヶ所以上あるが、今はお年寄りのグランドゴルフで独占している状況にある。保護者から曜日・時間を決めて子どもに開放してほしいというお話はあるが、調整が難しい。熊本市の場合は、公園愛護会が公園を管理し、清掃しているので、なかなか子どもが使いづらい状況もある。やはり、自治会内での話し合いが大事だと思う。
今の子供は、ゲームばかりで外で遊ばないので、遊ぶ場所を確保するのは、大人の役目だと思う。

E 委員 日吉の公園では、グランドゴルフの練習時間は 9 時 30 分から 10 時 30 分までと決まっている。その他の時間は子どもに譲っている。
グランドゴルフで使わせてもらっているので、ボランティアで公園の草取りもしているが、私たちの草取りの後に市役所の草取りがあったので、時期を考えてほしい。

会 長 そういう調整は大事。

F 委員 南区にはいい公園がないイメージがある。私の知人も、わざわざ他の区の公園まで子どもを連れて行っている。
南区にも遊具が充実した大型公園があってもいいのでは。子育てしやすい区には若い世代も集まってくる。

A 委員 団地を作るときに、公園を作らなければならないという決まりがある。団地にあるような小さい公園などを全部足すと、人口に対する公園の広さは十分足りているという説明を市役所から受けた。実際は、団地の公園は狭くて使いづらいのに、新しい公園を要望しても、なかなか難しい。ずいぶん前に浜戸川の整備計画が示されたときに、浜戸川を利用した湧水公園の話があったが、頓挫した。せっかく浜戸川があるのだから、浜戸川を活用した公園を整備してほしい。

会 長 新しいものをつくるとなるとなかなか難しい。確かに、新しいものをつくるチャンスを逃さないことも大事だが、今あるものを活用することも大事。ネットワーク化したり、役割分担をきちんとすることで活かすことができるのではないかな。

「南区には安心して子どもが遊べる場所がある」と言えるようになったら、南区の魅力になると思うし、若い人が住みたいと思う区になると思う。
今日は他の議事もあるので、ワークショップに関してはこれで終わりたいが、

来年は若いお母さんたちが参加できるワークショップにしたいので、事務局にはぜひ託児を設けることも考えてほしい。

事務局 (平成 28 年度南区まちづくり推進事業について)

会長 南区のまちづくり推進事業が始まってから、「情報共有・発信事業の充実」、「まちづくりを担う人材育成の充実」、「テーマに応じた区のまちづくり事業の充実」、「地域の特性を活かしたまちづくり事業の充実」の 4 本柱を中心にやってきている。平成 28 年度は 18 事業計画されているが、それぞれの事業が 4 つの柱に密接に関係している。これから、それぞれの事業について、ご意見があれば伺いたい。本日いただいたご意見は、平成 28 年度の事業には反映できないかもしれないが、平成 29 年度以降の事業計画で参考にしたい。

G 委員 今年度を実施された事業の概略については、さきほど説明があったが、「ウォーキングキャンペーン」の参加者数や「防災フェア」の状況など各事業の結果や反省点についても、お話しいただきたい。ただ単に来年度も継続することだけでは、説明不足なので、事業評価なども含めてお願いしたい。また、行政で作成する資料は日付が入っていないことが多いので、日付を入れるようにしてほしい。

会長 確かに、日付を入れるのは大事なことなので、今後は気をつけてほしい。また、どういう理由で継続と判断したのか事務局から説明していただきたい。まず、今お話があった「ウォーキングキャンペーン」から願います。

保健子ども課長 「ウォーキングキャンペーン」については、平成 26 年度に NTT と連携して、ICP を活用して実施したが、その中でアンケートをとったところ、8 割の方が健康数値が改善した上に、健康に対する意識の変化があったことがわかったため、平成 27 年度は対象範囲を広めて「ウォーキングキャンペーン」を実施した。平成 27 年度は、400 人を定員として 21 校区を対象に募集したところ、392 名の方が参加された。また、社会教育振興事業団にお願いして、「ウォーキング」のほかにも「スポだめし」などのイベントを 3 つほど開催した。現在、「ウォーキング」の結果を集計中だが、上位入賞のチームには「南区いきいきフェスタ」において、表彰する予定。

「健康まちづくり」においても、「歩くこと」をテーマに掲げている校区がかなり多いので、南区としても「歩くこと」で健康につなげたいと考えて、平成 28 年度も継続と判断した。また、来年度は少し趣向を変えて、1 チーム 3 ～5 人程度で 400 人参加していただければと思っている。今回は、ICP を活用できなかったのが、途中経過等が確認できなかったが、来年度は ICP を活用した形で実施したいと考えている。日々途中経過を確認していただくことで、競争意識の向上に繋がると考えている。

会長 次は、「防災フェア」について願います。

- 総務企画課 長 「防災フェア」は、10月31日に「子どもいきいき学びフェア」と同時開催し、1,000名近くの方が来場された。南消防署と連携して、屋外では起震車の体験やペットボトルピザづくりなど「防災フェア」の催し、屋内では6つのまちづくり交流室からいろんな体験教室を企画して、「子どもいきいき学びフェア」の催しを開催した。
- 会 長 来年度の事業については、事務局で熟考して、継続かどうか判断されたと思うが、懇話会にも適切な情報を提示していただくことで我々も意見交換しやすくなる。G委員がおっしゃるように事業評価や寸評なども必要だと思うので、次年度以降は、懇話会の場で考えてほしい。
ここからは私の意見だが、イベントが多すぎるように感じるので、例えば「フットパスイベント」と「ウォーキングキャンペーン」を連携することは考えていないのか。
- A 委 員 平成27年度の「ウォーキングキャンペーン」のチラシでは、「ウォーキング」と「スポだめし」がセットになっていたのも、少し違和感があった。「ウォーキング」であれば、最後に「フットパス」と連携する形にもっていけないか。また、連携で言うと、「南区を知ろう」の中で「南区キャラクターのプロフィールを考えるワークショップ」を計画されているので、南区キャラを使った絵本や紙芝居の製作を、「子育て支援リーダー育成事業」で実施したりなどできないか。連携について、考えてほしい。
- 会 長 まさにA委員のおっしゃるとおりで、もっと、乗り合いを増やしていくと事務局の仕事も減るのではないかと。せつかなので、動員ではなくて、「行きたい」と思わせるイベントになるように考えてほしい。
- 副 会 長 平成28年度事業の中に「まち歩き手帖」の更新が入っているが、川尻・城南の「フットパス」のコースとも重なってくるので、「ウォーキングキャンペーン」で「まち歩き手帖」のコースを歩くなど、事業間の連携を図っていく必要がある。そうすることによって、区民の方も一連の流れが見えてくると思う。
また、この間、実行委員会を主体として「自然を活かした連携支援事業」が実施されたが、この中で本当に官民協働により実施している事業がどれくらいあるのだろうか。
これからのまちづくりは「協働」が大事なので、区民も「参加」から「主体」へと切り替えていく必要がある。
平成29年度の見直しの中で、官民協働の仕組みや枠組みを作っていかなければならないと思う。
- 会 長 たとえば、「まち歩き手帖」は南区役所が作成したが、それを実際使って、編集していくのは区民の方。イニシアティブは行政がとらないといけないが、

区民の方のアイデアでどんどん改訂していけばいい。それが「協働」だと思う。そうすると、行政も楽になる。区民の方に編集委員に入っていただくなど、区民の方のアイデアを引き出せるようにもっていくべき。
新しくおおげさなことをするのではなく、ちょっとした仕組みづくりで「協働」につながると思う。

保健子ども
課 長 来年度の「ウォーキングキャンペーン」では「まち歩き手帖」と連携するイベントをいれたいと思う。また、「子育て支援リーダー育成事業」については、南区の「子育て支援サイト」の編集委員を育成している。本当は SNS のように簡単に記事を公開できる制度にしたかったが、いろんな制約があって難しいので、一旦事務局で確認して、公開している。来年度はさらにレベルアップしていただいて、それぞれの子育て支援サークルが毎月記事を公開できるかたちになればと考えている。

会 長 「まち歩き手帖」も、それぞれのコースの消費カロリーを掲載するとか、子どもが安全に遊べる公園を紹介するとか、防災まめ知識を掲載するとか、観光だけでなく、区民の方が必要とされる暮らしに直結する情報を掲載して、南区の暮らしやすさの指標になるといいと思うので、改訂版をつくるときはぜひ検討してほしい。

A 委 員 「まち歩き手帖」はコースの距離が掲載されているが、短い時間で歩きたいときのショートカットコースも検討してほしい。
城南町観光ボランティアも「まち歩き手帖」のコースを歩くことから始めたが、時間によっては回れないコースもある。私たちは道を知っているから、ショートカットできるが、知らない人も短時間で回れるコースも考えてほしい。
また、「ウォーキングキャンペーン」については、グループでの参加になっているが、1人でも参加できるような手立ても考えてもらおうと、参加者はもっと増えると思う。グループでの参加はとても敷居が高い。

会 長 それでは、最後の意見交換に移りたい。
今回のテーマは「南区のまちづくりの変化、また、変化が必要な部分」。
一旦始めた事業は、なかなか止めにくい面があるので、継続事業について、本当に意味があるのか、委員のみなさんからご意見をお願いしたい。たとえば、「私の回りではこういう意見の人が増えたけど、事業の趣旨とかみ合っていない」とか「この事業はよかった」とか、みなさんのアンテナで得た情報を教えていただきたい。

H 委 員 「南区いきいきフェスタ」については、2回、3回と繰り返し実施されたことで、今年もフェスタの時期になったと楽しみにしている人がいると聞いている。
「まち歩き手帖」は本当によくできているが、知らない人が多いので、たく

さんの方に周知する方法を考えてほしい。たとえば、冊子じゃなくて 1 枚の用紙で「こんなのがありますよ。」と紹介すると、たくさんの方に手のとってもらえるのではないか。

会 長 「南区いきいきフェスタ」は他の区でもやっているの、どうしたら南区の特色が出せるのか心配していたが、好意的に受け止められているようなので、事務局もうれしいのではないか。
「まち歩き手帖」は、私も携わったので、とてもうれしい意見をいただいた。これからも、いろんな手法でやっていきたい。

副 会 長 ワークショップに参加して、「以前は地域で集まって話し合う場があったけど、最近ないよね。」という意見を聞いた。地域の中で、寄り所・場所づくりが必要になってくる。この場所は、地域で子どもを見守る目にもつながっていくと思う。じゃあ、どこに作るのかという問題が出てくる。さきほどの公園の件も、川尻は公園が少ないが、全体でみると足りている。つまり、地域によって偏りがある。昔は、田んぼとか川とかで遊んでいたが、そういう場所で遊べなくなったから、公園が必要になったという議論だが、子どもたちが自由に動ける空間づくりは、地域の寄り所と組み合わせることのできるのかなと考えている。
「ウォーキングキャンペーン」について、今日の熊日に合志市で「健康マイレージ」を実施しているという記事があった。こういう仕組みであれば、個人でも得点が受けられる。商工連携が必要であるが、いろんなアイデアを出していくのがいいと思う。

会 長 何でも言わないと始まらないので、アイデアを出していくのが大事。
出張所の再編も計画されているし、これからは区役所と区民のみなさんとの関係性も変わってくると思う。どう変えていけばいいのかという議論も必要と思う。

G 委 員 南区にはいい公園も沢山あるが、駐車場がない。一般の駐車場を作るとキリがないが、せめて赤ちゃん専用の駐車場は確保してほしい。どこかで赤ちゃん専用の駐車場を検討してほしい。まずは、実験的にでもお願いしたい。

副 会 長 大規模の公園に駐車場を常備しておく、災害時には防災車両も駐車できるので、その公園が防災ステーションにもなる。

B 委 員 平成 28 年度の新規事業の「安全・安心なまち啓発事業」について、ポスターコンクールが一番てっとり早い方法であるが、教育現場では「いつ描かせるか」、「表彰式には誰が引率するのか。」という問題がある。夏休みは「節税」、「防犯・防災」など 20～30 項目ほどのコンクールがある。これ以上コンクールが増えても意味がないので、よかったら、もうちょっと考えてほしい。
また、他の事業についても、「健康まちづくり」など区民に対して過保護にな

っているように感じる。先日の「クローズアップ現代」で自治会組織の特集があったが、もうちょっと自治会組織を応援する仕組みを考えてほしい。

たとえば、草刈機や芝刈り機をレンタルするとか。

この間も町内対抗のグランドゴルフ大会があったが、若い方はクラブを持っていないので、区役所にレンタルをお願いしたが、水前寺に行くように言われた。しかし、水前寺も数がなく、レンタルできなかった。

行政がいろんなイベントを企画するのではなく、地域主体でイベントができるように必要な器具をレンタルする仕組みを考えてはどうか。行政もその方が楽になるのではないか。

また、「健康まちづくり」については、身体健康だけでなく、心の健康にも力をいれてほしい。南区にはコンサートホールが多いので、音楽などで心の健康にも気を配ってほしい。

総務企画課 長 ご意見、とても参考になった。この「安全・安心なまち啓発事業」については、警察などで同様のポスターコンクールがあるため、警察と連携して、警察のコンクールに応募してきた南区在住の子どもたちの中から優秀賞を選んで、その作品をポスターにして掲示するかたちで考えていた。負担にならないように検討する。

E 委 員 草刈機については、以前は環境衛生事業所でレンタルができたが、廃止された。せっかく器具があるのにもったいないので、もう一度レンタルの制度を復活できないのだろうか。

総務企画課 長 政令市に以降したときに、環境衛生事業所がなくなったため、草刈機については、各土木センターで道路整備等に活用している。

I 委 員 グランドゴルフのクラブについては、富合では貸出ししている。ただし、校区外にもレンタルできるかどうかは不明だが。

会 長 草刈機が区役所になってレンタルができなくなったということであれば、問題があると思う。草刈機自体は土木センターで活用されているということだが、レンタル制度については検討してほしい。

B 委 員 旧南保健福祉センターも、現在は完全な空き家でもったいない。他にも南区には使われていない建物があるので、活用策を考えてほしい。

宮本委員 4本の柱から少しはずれてしまうが、現在少子化が大きな社会問題になっている。少子化の原因は、結婚しない人が増えていること。菊池市では婚活活動も行っているので、区役所でも結婚のきっかけづくりをするべきでは。

保健子ども課 長 熊本市主催ではないが、リビング新聞などと連携し、婚活イベントをしているという話は聞いた。

- J 委員 飽田にある白川の河川敷が活用されていない。
- D 委員 旧飽田町が管理していたときは、きちんと整備していたので、サッカー場として利用していた。現在は、国交省が管理しているが、予算の問題で整備が遅れている。
- 会 長 まずは、自分たちで始めることが大事なので、地域で草刈することも検討する必要があるのではないかな。
- 副 会 長 国交省は、草刈機のレンタルをしてくれる。
- D 委員 草刈りも年に 2～3 回行っているが、追いつかない状況。
- 会 長 国交省からの草刈機のレンタルについても、知らない方も多いのでは。南区の公園情報についても、情報が偏っているため、みんなで情報を共有することが大事。
- D 委員 各町内の公園には公園愛護会があるので、すべてきちんと管理されているが、問題は、大きな公園の管理。
- K 委員 白藤公園でよく子どもたちが遊んでいるが、駐車場がないし、トイレも汚い。駐車場があると利用者も増えると思う。
フットパスについても、駐車場の心配があるので、細かい情報がほしい。
私は子育てサークルに携わっているが、その中で「フットパス」を紹介して、他のサークルとも連携して、「フットパスイベント」に参加したりというのもいいと思う。また、郷土料理を継承するために、「フットパスイベント」の中で、「たからもの料理教室」で紹介された料理を試食するなどいろんな連携を考えてほしい。
- 会 長 「フットパス」の駐車場とトイレについては、ハード整備は難しいので、ちょっと離れた駐車場を使って、安全に歩いて移動するなどいろんなルールを作ってソフト面で改善していく方法を考えることが必要。
南区は、人も場所もとても恵まれているので、行政と地域、それぞれがアイデアを出していくことが大事。
- I 委員 富合町商工会が奇数月 28 日に「フットパスイベント」を行っているが、このイベントでは木原不動尊の駐車場を利用している。フットパスの後は、富合町商工会のレンコン入り焼きそばをふるまっているので、ぜひみなさんも参加してほしい。
- C 委員 「28 日は雁回山に登ろう！」というキャンペーンをして、奇数月の 28 日に

木原不動尊である富合町商工会の「フットパスイベント」を、ぜひ広めてほしい。

会 長 なるべく新しいことを増やさずに、わかりやすくすることが大事。それぞれが勝手にやっていたてはできないので、みんなで情報を共有して連携しながら事業を実施してほしい。行政がやることも民間がやることも、南区がやっていることとして捉えて、それぞれが連携することが大事。